

フラグシップ・ニュース 拝啓社長殿

トップのための経営財務情報

第465号 この資料は全部お読みいただいて120秒です。

今回のテーマ： 金融経済危機後の展望—ある経営者からのご質問に答えて

あるご質問・・・

昨年8月は‘原材料価格の高騰と今後の展望’についてアドバイスを頂きありがとうございました。おかげさまで当社の方向性について誤ることなく進めることができました。（昨年8月のニュースレターについては http://www.gtjapan.com/pdf/newsletter/ceo/ceo_200808.pdf）

当社（食品関連の製造・販売）でも、国内需要の先細り不安やアジア市場の拡大をにらんで、積極的な海外展開（生産拠点、販売拠点の確立）を考えております。

昨今の情勢および当社の進むべき方向性について、なにかコメントがあればお願いいたします。

バーナンキ FRB 議長再任の意味

オバマ大統領はバーナンキ FRB 議長の再任を決めました。バーナンキ氏はリーマン・ブラザーズ破綻を容認しましたが、その結果米金融市場は取り付け状態に陥り、危機はスパイラル的に世界金融市場を直撃しました。バーナンキ氏はスタンスを大きく軌道修正し、一步も二歩も踏み込んで、取り得る手段を大胆、迅速、強力に実行。信用収縮によるパニックの回避を最優先させ、金融システムを危機的状況から脱することに成功したとされます（2009/8/26日経新聞他）。市場が支持するバーナンキ氏の再任によって、市場主義路線と‘行き過ぎた市場主義’の修正は継続されることでしょう。

今後の経済情勢は・・・

‘Leveling-Out（レベリング・アウト、横ばい）’ 8/12のバーナンキ氏は議長声明においてこの言葉で説明しました。危機は脱したが、V字回復もないというのがほぼ共有認識でしょう。金融危機はいったん去りましたが、金融以外の分野における本格的な調整が進行することとなります。

個々の企業は生き残りに必死

新興国の旺盛な購買力をもってしても埋められない需給ギャップに対して、今回も日本企業は素早くコストカットに動き、ギャップの縮小に努め、その成果を出しつつあります。つぎにとるべき施策は、製品力・価格競争力の強化、新興国市場への戦略的進出、ワールドワイドな市場戦略などでしょう。キリンとサントリーに見られる‘強者連合’は、これらを象徴する新たな動きです。新興国の中でも力強い発展を遂げているアジア市場に狙いを定め、あるいは日本国内で競争力を強化し、業務提携・M&Aなど、積極的に生き残り策を模索しチャレンジする必要があります。

お見逃しなく！

為替の動向と新たな視点の海外進出

為替相場（通貨力の相対比）は、超長期では‘国力’によりますが、短期では‘市場参加者心理’で大きく振れます。直近では、リスクが強く意識されると円が買われ、低くなると円を売って他のリスク資産を選好する傾向が続いています。中期的には、今回の危機における財政出動（米財政累積赤字は今後10年で7.1兆ドル→9兆ドルに修正）や規制強化、多通貨での運用拡大などによる米ドルの相対的地位低下が予想されます。

先進国でも人口増が続くアメリカ、結束しその拡大が見込まれるEU・ヨーロッパ、急速な経済発展を遂げる中国・インドその他のアジア諸国。日本の国力の相対的地位低下は避けられず、円の力も下落することが想定されます。これらの国々を取り込みつつ、生き残りをかけた海外進出は、円の力が比較的高い今現在にビッグチャンスあり、と言えましょう。